

令和8年2月28日

# 日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 263

## 「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立中小路小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、中小路小学校（齊藤貴司校長）の藤田 淳一（ふじた じゅんいち）さんです。

藤田さんは、日立市の出身です。中小路小学校、駒王中学校は母校です。小学校時代は、とても慎重な子だったそうですが、高校時代は陸上を楽しんだそうです。今でも、足は丈夫で、よく歩くそうです。1日に15kmくらい歩いても平気です。歩きながら人とのふれ合いを楽しんでいるようです。

理科クラブに入る前は、父親が共同経営していた町工場です。主に原子力研究所絡みの熱交換器の実験装置の設計施工管理をしていました。

理科室のおじさんは、2年目です。学校では、「藤田先生」と呼ばれています。授業の計画に基づいて実験の準備をしたり、後片付けをしたりしています。先生方とは、連絡ノートを使ってやりとりしています。

気をつけているのは、児童が安全に実験ができるように準備することです。まだ「理科室のおじさん」の経験が浅いので、他の理科おじさんに失敗例などを聴いたり、事前に一度予備実験をしたりして準備を進めています。特に、火を使う実験には注意しています。また、保護めがねを使うことも忘れずに行うようにしています。

理科室には、児童が理科室に遊びに来たときに楽しめるような科学遊びも置かれていました。ビー玉の大きさによって入る場所が変わるレールはとてもおもしろく児童にも人気があるようです。太陽電池を利用したおもちゃも置かれていました。

理科室のおじさんになって楽しみは、特に科学クラブで児童がチューブ等でやりたい実験を見つけてきてリクエストされることです。そしてそれに答えることができたときに、やりがいを感じるそうです。

訪問したこの日もクラブがある日で、昼休みに4・5年生の児童が、「クラブの時間にやりたい。」と言って、ペーパータオルに水性ペンでラインを引いた物を準備して持ってきました。これを水に浸すとどうなるか調べたかったようです。当日のクラブは、日立理科クラブのドローン教室になったことを伝えると、休み時間を利用して用意してきた実験をみんなで楽しんでいました。

児童に伝えたいのは、何人かでも科学に興味をもってもらうことです。科学の楽しさを味わってほしいと思っています。この昼休みも、児童とふれあう藤田さんの姿にその様子を見ることができました。

最後に、中小路小学校のよさを聞きました。中小路小学校の児童は、人数が少ないこともあるかもしれませんが、とても素直なことだと藤田さんは言います。

理科室や廊下で出会った児童たちは、笑顔で挨拶をしたり、清掃をしっかりと行っていたりして、とてものびのびしているのを感じました。



「理科室のおじさん」藤田さん



整理された器具



科学おもちゃ



実験を楽しむ児童たち